

## 第3回東北圏広域地方計画改定に関する有識者懇談会 議事要旨

【未定稿】（※委員の確認前時点）

1. 日時  
平成27年8月24日（月）13:00～15:00
2. 場所  
東北地方整備局（二日町）大会議室
3. 出席委員  
柴田洋雄座長、今村文彦委員、澁谷尚子委員、関山和秀委員、中出文平委員、  
浜岡秀勝委員、針生信夫委員、宮原育子委員、谷村久興委員、若菜千穂委員、  
渡邊明委員
4. 議事  
(1) 東北圏広域地方計画改定中間整理（案）について  
(2) 東北圏広域地方計画改定広域連携プロジェクト骨子（案）について

## 主な発言内容

## (1) 議事

東北圏広域地方計画改定に関するスケジュール、中間整理（案）及び広域連携プロジェクト骨子（案）等について事務局より説明。その後、意見交換が行われた。各委員から出た意見は以下のとおり。

- ・ これから10年の計画の中で、国連防災世界会議を受けた位置付けが重要である。今後15年のグローバルな防災戦略が、東日本大震災の経験を受けてつくられたところであり、その内容を入れて頂きたい。グローバル化、国際交流といった点からも、「防災と言えば東北」というように防災先進国として来訪してもらうことが重要である。
- ・ また、仙台防災枠組2015-2030でも、「事前の防災投資」、「より良い復興」といったキーワードが出ているので、その辺りも盛り込んで頂きたい。
- ・ 今の日本における研究と社会との関わりをみると、東北では「防災」だと思う。東北は、社会における防災面での拠点となっているので、「対流」の拠点としても防災を盛り込んで頂けたらと思う。

- ・ 国として、命・安全にかかわるインフラ整備は「防災」も含め、重要であり、そこに重点をおくことは賛成である。
- ・ 個人的には、過疎地域でどうやって生活を維持・定着させるか、ということに取り組んでいる。経済的な安定が必要となり6次産業等に取り組んでも、そんなにうまくいかないという現状がある。若い世代の方に東北に来てもらう取り組みや産業のあり方を考えるのが今後大事だと思う。
- ・ 「防災先進圏域」のコンセプトは賛成である。
- ・ 世界の人々が来られるようにすることが重要である。しかし、言語の問題があり、外国人が移住・参加するには環境が整っていない現状がある。人口流入を目指すのであれば、海外から人を集める環境整備も重要である。
- ・ 第4章までの内容は非常に良いと思う。東北の特徴を出すということで考えると、「防災」「人口減少」とあわせて、東北圏の「良い環境・国土」が挙げられる。この点について、戦略的目標3の2、3で強調して頂きたい。
- ・ [はじめに]で、「例えば…」以降の「コンパクト+ネットワーク」について、もう少し踏み込んだ書き方にして、具体性が出てくると分かりやすい。「また…」以降の「呼び込む」については、他圏域からの呼び込みのためには圏域内の活発化が必要であることが分かるように記述して頂けたらと思う。
- ・ 「コンパクト+ネットワーク」については、農山漁村と都市の連携についてのみ記述されているが、「都市と都市」の連携等も考えられるし、冬に限ったものでもない。誤って解釈されないよう書きぶりに注意して頂きたい。
- ・ また、人口減少は重要な課題であるが、さらに長い目でみると、人口に関係なく良い生活を送れる環境づくりが重要である。今回のタイミングではまだ早いかなと思うが、今後検討して頂ければと思う。
- ・ 東北のメリットとして、豊かな自然に並行して道路が走っていることが挙げられる。
- ・ 林業を1次産業だけで続けていくのは難しく、突き詰めると1次産業の6次産業化＝エネルギーの創出に繋がって行く。
- ・ 林業はエネルギーを作り出す面でも活用可能であるが、東北はこの点が弱い。木質バイオマスについては岡山県が県を挙げて取り組んでいるが、東北の方がより効率的に活用できる環境にあると思う。
- ・ 森林の近くにインフラがあり、水田や畑も近接している。そういった面で、経費の削減が可能であるので、強調して頂きたい。
- ・ 太平洋側・日本海側の2軸の連携という点について、新しい東北圏の将来像イメージ図が分かりにくい。2軸を持っていることが東北の強みであるということが分かるように表現して頂きたい。ラダー構造と2軸のフル活用が繋がっている

ない印象をもったので、その部分を考えて頂きたい。

- ・ 観光によって人を呼び込むという点は重要である。これまで各県ベースで事業が行われてきたが、東北全体で入口・出口のインフラを見直す必要があることについても重点的に書いて頂きたい。
- ・ やはり玄関が魅力的でないと奥まで入ってきてもらえない。奥の方の整備は地域の人たちが頑張る部分だと思うが、東北全体として呼び込むという視点から、仙台空港をはじめとしたゲートウェイとしての機能を強化するという内容を盛り込んで取り組んで頂きたい。
- ・ 震災前後で沿岸地域の景色は一変した。背の高い防潮堤に囲まれ、海が見えなくなってしまう。楽しむ観光という点では人が訪れにくくなっており、観光のイメージを変えていかないといけない。今後、沿岸地域に産業や人口が戻ってくるのか非常に懸念している。
- ・ 教育面でも、沿岸地域では教材がないということで、内陸から教材を提供してもらっている現状である。
- ・ 総合的戦略も大事だが、「この地域はこれ」という、個々に応じた目標をもってまちづくりを行う必要がある。この計画が、圏域内の横の交流、沿岸地域との交流の足がかりになればと思う。
- ・ [はじめに]で、「均衡性を維持しつつ」という文言があるが、「共同」や「新しい東北」と言う文言に変更してはどうか。今の状態が均衡ある形だとは思っていないので、「維持」という言葉は再考頂きたい。新しい均衡性を創出していく、一緒に発展していくといった表現の方がいいかと思う。
- ・ 「コンパクト+ネットワーク」について、地方では「切り捨て」のイメージがあり、現状では説明不足だと思う。「コンパクト+ネットワーク」の結果、どのようなメリットがあり、どのような暮らしになるのかが描けていない。
- ・ 地域の祭りや郷土芸能は東北の力である。「コンパクト+ネットワーク」が祭りや郷土芸能の継承にもつながっていく。祭り、郷土芸能、防災にも繋がる里山、豊かな自然について、結集・発信して継承していくというところまで書き込むと東北らしさが出てくると思う。
- ・ 戦略的目標7「地域を支える人づくり」について、他と比べると具体的なコメントが少ないので、お手伝いしていきたい。「共助社会づくり」を描きやすい内容で簡潔に記載して頂きたい。「地域づくり協働体」という言葉が出てきており、以前より東北発のものとして説明頂いているが、実態が見えない。また、「中間支援組織」「地域づくりコンソーシアム」といった言葉も出てきている。さらに近年では総務省で「地域運営組織」という言葉も使われている。
- ・ 地元の人たちは「地域運営組織」として活動し、それを中間支援組織や行政、企業がサポートすることが必要である。「地域づくり協働体」は「地域運営組織」に応援団も含めたイメージだと思う。そのあたりをイメージしやすいように再整

理して頂きたい。

- ・ 戦略的目標7の3に「地域のまとめ役をコーディネーターとして活用」との記述があるが、地域のまとめ役がコーディネーターになることは実際には難しく、記述を見直して頂きたい。また、「復興支援活動と被災地ニーズをマッチング」という、防災に関する内容も含まれているため、他への移行、すみ分けの整理を行って頂きたい。
- ・ 対流について書き込んで頂いているが、まだ分かりにくい。対流を起こす熱源と流れるものが分からない。ヒト・モノ・カネが流れるものであれば、それを明記して頂きたい。第3章に「東北圏への移住等を促進させる」とあるが、全国的な人口減少下で、ヒトを呼び込んだ側はいいが、移住元が減るとするのは対流とは言わない。
- ・ 新しい東北圏の将来像イメージ図は、交流、還流は示されているが、対流のイメージは湧かない。
- ・ 第3章では、対流の熱源を示しているだけになっている。特にヒトの対流構造が見えにくい。何が流れて、何が熱源となっているか、どこで増減が発生しているか等をイメージした上で再考頂きたい。
- ・ [はじめに]の内容は、全体を印象づけるものとして重要であり、最終案にもきちんと記載して頂きたい。
- ・ 対流について、「どういう形で戻ってくるのか」が課題である。「流れるモノが何なのか」は地域ごとに追いかけていく必要がある。地域の人が、何を対象と考えるかによって、対流になっていないと捉えられることがあり得る。対流の中身について、事例等を使って丁寧に記述してもらえたらと思う。
- ・ 東北圏は、豊かな自然の中で新たな生活をつくっていくという点で最適な場所だと思っている。
- ・ ベースロード電源として原子力を使用するのではなく、バイオマス発電を利用していく等、新たな試みをやって頂きたい。森林の可能性やバイオ問題について、強く書き込んでもらいたい。
- ・ コンセプトには、競争原理に基づいてどう勝ち抜くかという点ではなく、里山での生活等も含めた東北の特徴を盛り込むべきではないか。
- ・ 多くの計画において、一次産業が古くてダメで、二次、三次と産業が発達すると中身が変わるといいう言い方をすることがあるが、そうではない。一次産業に対する根本的な見直しによって、社会にとっての一次産業の重要性が見直されると思う。また、これに先進国である日本が取り組むことは、世界に与えるインパクトがあり、新しい観光の形にもなり得る。
- ・ 東北は一次産業が復活可能な地域であるため、そのことがキャッチフレーズの「豊かな自然」にも表れていると思う。これらを資源、財産として対流を考えて

いければと思う。[はじめに]には、インパクトのあるキーワードを入れて頂きたい。

- ・ 防災に関して、「ハードとソフトを総合的に」とあるが、戦略がバラバラである。再度まとめて頂き、ハード・ソフト・土地利用をあわせて総合的に防災に取り組むという内容にして頂きたい。その際、「事前防災」「緊急対応」「早い復旧・復興・回復」の要素を入れて頂きたい。
- ・ 教育に関して、人材育成も大事だが、地域や企業の「リーダーの育成」が非常に重要であるため、是非記述して頂きたい。
- ・ 戦略的目標3に広域連携プロジェクト13「東北圏の歴史・伝統文化、自然環境の保全・継承プロジェクト」となっており、「歴史・伝統文化」と「自然環境」が両方含まれている。一方、戦略的目標5にも「地域の資源・特性を活かした」との文言がある。プロジェクト13は、「自然環境の保全・継承」に絞って、森林・自然公園・農地・里山等も含めた自然環境と、都市や農村との結びつきが強いことを前面に押し出した内容としてはどうか。東北の防災、産業、観光には豊かな自然がルーツにあり、自然環境の維持・整備については、様々な分野の方の意見を取り入れながら整理できる内容だと思う。
- ・ 人が住んでいるところに関しては、戦略的目標4のプロジェクト3、4、5に東北発コンパクトシティの考え方がうまく取り込まれていると思う。
- ・ ソフト面で「復興」という言葉が使われているのに違和感がある。人口減少、後継ぎ不足等は震災以前からの課題であり、以前の状況に戻せばいいというものではない。乗り越えるだけでは次の東北は見えず、夢を持てる計画にして頂きたいと思う。
- ・ 「復興」という言葉は、単に元に戻るのではなく、さらに先へ進むという思想である。具体的な復興の取組についてはできるだけ当事者の意見を反映できるような仕組みにしていくことがこの計画だと思う。どう復元するかを一括して議論するのではなく、それぞれの地域の住民の意向を汲み上げて、それが実現できるよう計画の中で位置づけるというのがポイントになる。復旧ではなく、一歩先までいくということが分かるようにして頂きたい。

※新しい将来像キャッチフレーズについては次回まで再整理とする。

以上